

定一 部金貳錢 廣五號十二休 日曜大祭 福島縣石城郡平町田町廿六番地 印刷所一〇活版所

一月極三限リ 告五字詰一行 日刊 祝日ノ翌 印刷所一〇活版所

價一ヶ月廿錢 料五十錢 日刊 祝日ノ翌 印刷所一〇活版所

發行兼編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町字長橋町廿五番地 發行所 常盤毎日新聞社

常盤新聞

刊夕日五十月五

三井吳服店
セルとモスの
大廉賣

初夏には
實用のセル
全盛の
着尺モスリン

今年代表的の
洋傘

平町三丁目
三井吳服店
電話三十八番

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に読める
平町長橋町三五
川崎回文庫
(申込次第規則書進呈)

眼科 泌尿科
皮膚梅毒 毒科
阿部醫院
平町字新川町
電話五六七番

看護婦派出
の求めに
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

獨逸 高級
眼鏡
(メニスカス)
問「メニスレ
ンズを何ん
で皆さんが
お好みにな
るのです」
答「掛け心地
が良くて眼
や脳へは絶
對弊害がな
く晴々する
からです」
平町一丁目
常盤屋
時計店
電話三三九番

弊店眼鏡部は各品多敷取揃へ
電力應用で速時調整します

山古印油
味 美味
經濟

元造 醸
店本屋鹽
番七二話電

評判第一
久保田パン

柏屋染物店
柏傳刺子部

リモ華客ノ
一言ニアリ
弊舖ノ萬言ヨ

柏屋染物店
柏傳刺子部

政戦の跡に 立ちて (二)

川崎文治

冷静なる態度を以つて戦跡を顧みる時其處には幾多の敗因と認むべき殘骸が累々として横はつて居る事を知るのであらう、即ち手取り早く選挙戦中最も表面的に兩派の戦略を具現化した。宣傳戦を茲に比較對照すれば兩派運動の適不適が一目瞭然である。星派の宣傳ポスターは「郡民協力一致して選挙の手柄を作りませう」とやつての

おごろく勿れ大廉賣

米 大松米
杉 大杉
天 大天
井 大井
角板石等
色川製材部へ

産地新材入荷大々の勉強可申候間多少に拘はらず御用命被下度御願申候

内地材 各種

色川勝三郎商店
磐城平町 電話三四一

開店御披露

好店イ買
良品ヲ安ク賣ル

クースーリ

関内薬舖
薬劑師 関内栄助
電話四〇番

けた超然的なものと赤地に白く星一氏に一票を乞ふの石版刷り以外に行人の眼を驚かした。何物も無い。然るに是れに對抗した比佐派はあらゆる奇抜なまた何人にも肯定を迫らずには置かぬやうなポスターを幾種類も用意した外に肉筆のものまでも多く貼付して人々の注意をひくに大なる犠牲と努力を惜まなかつた。果して憲派の宣傳ビラが奏効するに充分なる資格を具備して居たか？ また政派の宣傳ビラが一票を獲得する力に欠けた点があつ

評判第一
久保田パン

柏屋染物店
柏傳刺子部

リモ華客ノ
一言ニアリ
弊舖ノ萬言ヨ

柏屋染物店
柏傳刺子部

たかごうかは茲に論すべき問題ではないが、此事實を對照して一つの考察を加ふるならば何人と謂も憲派のそれは。政派のそれは。比して生氣横溢し實に激濁たる熱誠の躍動を見免し得ないであらう事を信じて疑はない。眞偽の程は保證の限りでないが異彩を放つた憲派の或る種の宣傳ビラは、錫力板に繪の具を塗抹し是れを素人の手に依つて刷り上げた汗の力作と傳へられて居る、一枚のビラにも勝たんとする熱意をこめた根氣強さは眞に敬服に値するものあるではないか(續)

東新株 先限 實物
前場後場共入電致居候
平町田町 電話三三三番
丸登株式会社
川添房二郎

銘格	拂込	時價
警城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	七三〇
警越銀行	一一五	一〇五
警城實銀	三〇〇	二九五
田村實銀	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七〇
農工銀行	二〇〇	二四五
同新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同新	一一五	一六〇
七七銀行	一一五	九八
郡山電氣	五〇〇	三八五
同新	二五〇	一八〇
只見川電	一一五	七三
植田水電	一一五	一五五
好問水電	一一五	一四〇
警城建物	一一五	五五
警城製菓	二〇〇	六〇
平信託	五〇〇	三五〇
警城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製氷	二五〇	二三〇
好問軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一一〇
警城炭礦	五〇〇	四三〇
同新	二二五	一九〇
警城セメント	五〇〇	六八〇
同新	二五〇	三七〇
平運送	一一五	八〇

株買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

これからは暖かく
もう霜の心配はない
雨が續くかも知れぬ
小名濱測候所にて語る

五月も半といふに昨今の寒さはまた別段である、殊に養蠶地では降霜などあつたのでこの寒さが非常に心配されてゐる小名濱測候所についてたづねると「この寒は三陸地方を中心として北海道から本州中部地方まで擴がつてゐる高氣壓の爲めこの高氣壓の内部が寒いのである、しかしこの氣壓は東の方に去りつゝあるから寒さは十四日午前位でこれからは暖かくなりただ朝鮮の南西海上に低氣壓があるから降霜の心配はもうないが雨となる見込みである」と語つてゐた

炭礦労働者の優遇問題

本日松柏館に
常盤五大炭礦では今十五日午後一時より石城郡湯本町

小聯合運動

湯本校に於て
來る二十五日午前九時より石城郡湯本尋常高等小學校庭に於て同校外五校の聯合運動會を催す由

鐵道相場

納炭各炭礦の
石城郡内の各炭礦が鐵道省への納炭相場は中央市場の標準相場となるので各炭礦に於ては鐵道省と協議中であつたが此程契約を了した本年度の納炭量は磐城炭礦四十八萬噸、入山炭礦十八萬噸、古河炭礦十三萬噸の外大日本、小田、福島各炭

名人喜多氏を迎えて

素詣大會を開く
十七日住吉屋本店にて
平喜多會にては來る十八日水戸市に於て喜多宗家一門の演能會あるを好機とし十七日午前九時から名人喜多六平太氏の一行を迎へ住吉屋本店にて素詣大會を開催する由であるが會員の素詣數番あつて後番外として後藤得三氏、喜多六平太氏の景清あり仕舞に移り後藤得三氏の八島、喜多六平太氏の鳥頭及び隨行員に依て數番の仕舞を演ぜらるべく會費は一圓である

仁井田浦に貸しホテル

大浦有志建設
縣立公園の候補地たる石城郡大浦村仁井田浦海岸は毎

實際最近の所では東京方面に勞働してゐても炭礦よりも賃金の割合と生活に於て割が悪い爲め帝都に見切をつけて歸山するもの今後追

美人看護婦の自殺

人眼を忍ぶ果ない運命
石炭酸を燕下して

双葉郡大久村大字小久字腰卷看護婦飯高アサノ(三)は本日午前八時頃患家先なる石城郡平窪村大字中平窪字高儘相田銀彌方隠居にて石炭酸五瓦を嚥下自殺を企り清水醫師の應急手當を受け平署林部長檢視したが生命覺束ないであらうと

戀の囁き

今は空しく
遺書を認む

自殺を企つた看護婦飯高アサノは大正六年頃優等の成績にて平町應崎看護婦學校を卒業した地方には稀な美人であるが前記相田銀彌の長男

長五郎

が磐城中學
校を卒業して陸軍經理學校

カテイラン

日本髪を手入法
日本髪を美しく保せるには毎日撫でつけが必要で、まつ第一にピンからタポへかけて癖直しをします。これはもむのでなくて、熱くしぼつた癖直しの布を當てるだけでよろしい。一つには埃が取れるからです。次にピンを上げて兩ピンの毛をあげておき、荒櫛にソ毛をはさみ、それにぼつちり水を油をしめてその櫛でタポの毛をさかしますと、垢がソ毛に吸ひ取られて毛が綺麗になりますから、そこで毛筋立てタポをソき恰好をつけます。次にピンも最初ソ毛の櫛で垢をとり、ピン出して充分に毛を張り出し

海軍簡閲

來月十四日に
石城郡に於ける大正十三年度海軍簡閲点呼並びに召集事務檢閲は來月十四日郡議事堂にて執行の筈

桑園全滅

蠶兒を放棄
先日の霜害にて石城郡川前村上下桶賣及び小白井の約七町歩に亘る桑園全滅し折

殺を圖るに至つたのである
鐵道線路上に
推肥を顛覆
瀉車進行停止

石城郡赤井村大字西小川字上の原農若松祐太郎長女キヨ子(二)は昨十四日午前十時頃馬を轆いて推肥の運搬中小川郷驛附近にて馬の腹帯が切れ推肥全部線路上に顛覆したので折柄進行し來つた小川郷午前十時十九分發上り列車は約三分間停車

石城霜害調査

十三日早曉本縣一帶に降霜あり桑葉或は麥等各地の被害少からざるが石城郡は割合に被害少く之れが程度調査のため昨十四日佐久間、山田、堀内の三技手は比較的被害多き山間部各村へ出張した

界マネキ

「帝國館の本紙讀者優待」名映畫に次々に名映畫を以つて帝國館は益々ファンを熱狂裡に毎週の美譽へを期待されて居るが今週の映畫「暗の乙女」時代劇「現代話」の曲々他何れも好評を博し殊に余興の美人曲藝樂波光子嬢の天下に稱せらるる線上海の曲さりは頗る冒險的な珍らしい曲藝であつてみる者をして手に汗を握らしむる妙技のため非常な喝采を博し毎夜大入の盛現であるため特に本十五日は其御禮として本紙讀者に限り金五錢を以つて觀覽に供する由

美善

勞働美譚
河沼郡八幡村大字船形字南杉大道上生れ當時東海炭礦澤村飯場居住小野喜祖次(八)は四月二十日坑内作業中腦充血症にて卒倒五月六日死亡したが原籍地には一人の身寄りもなく役場の手で行路病者として扱ふより外なき場合となつたが坑夫等に依つて組織された交際所は進んで看護に當り死亡後は團員一同金銭米穀を持寄り百五十圓の經費で立

讀者優待券

此券御持參の方に限り下足料五錢にて御觀覽に供し候
(但し本十五日限り)
活動帝國館
常設